

【生薬名】猪苓 POLYPORUS

【起源植物】ヲレイマイタケ *Polyporus umbellatus* (*Grifolia umbellata*)



【科名】サルノコシカケ科 *Polyporaceae*

【別名】牛のフン、ヲレイタケ、ヲレイナバ、マツマイタケ、ハギホド、オニノカナクソ、中国では野猪食とも呼ばれる

【薬用部分】菌核

【主成分】トリテルペノイド、エルゴステロール、非晶形多糖類、ビオチン

【薬性】気味は甘淡平、帰経は腎膀胱に属す

【効能】●利尿滲湿・清熱

●1日3～6gを煎服する

●利尿作用は茯苓や沢瀉より顕著でかつ清熱作用も兼ねているが、茯苓のように脾胃を補益する作用がないのを考慮する必要あり

●急性の尿道炎の尿量減少、排尿痛、血尿など湿熱のものには猪苓湯はよく使われ効果も良い、血尿ひどい時は四物湯を合方する

●顕著な利尿作用、尿細管での吸収を抑制するので子球体濾過率GFRには影響がない

●水腫（腎炎など）に使う、重症ならば車前子・牛膝を併用する

●国の機関の研究で抗癌作用が確認されている、水溶性グルカンは担癌マウスに対し、強い抗腫瘍作用を示した

●水湿の甚だしい肺癌や肝臓癌等に用いられる

●黄色ブドウ球菌、大腸菌に対し制菌作用がある

【出典】●主治渴而小便不利也（薬徴）

●猪苓。一名猴猪矢。味甘平。生山谷。治痲瘰。解毒蠱注不祥。利水道。久服輕身耐老。（神農本草經中品）

●猪苓 味淡、水を利し淋を通し腫を消し湿を除き多く服せは腎を損ず。（薬性歌）

【備考】●猪の糞の形がよく似ているので、この名「猪苓」がある

●普段より尿量の多いものは注意して服用すること

【処方例】●猪苓湯、五苓散